

1. 問題

〔目的〕 この原稿の目的は、1930年代の学校と軍隊でのM検の事例を手がかりに、次の問いを明らかにすることである。「男性の不妊と生殖をとりまく現代の諸現象は、男性の身体史からみて、どのような意味を持つのだろうか?」

〔現状〕 ここ数年、男性の不妊と生殖をめぐる領域がにわかに活性化している。昨年、厚生労働省は日本ではじめての男性不妊にかんする当事者への実態調査に乗りだした。男性不妊治療にも、補助金を出す自治体が増えている。小錦八十吉、ダイヤモンド☆ユカイといった男性著名人が自身の無精子症を公にしながら、精液検査に及び腰な男性に病院に行くよう呼びかけている（『朝日新聞』2016年5月15日、2017年1月12日）。『週刊東洋経済』が昨夏に組んだ特集「『子なし』の真実」には、「不妊は男性にも原因あり」と銘打たれた記事が4頁に渡り掲載された（2016年7月9日号）。

昨年5月、性具メーカーのTENGAが家庭で手軽に精液検査ができるキットを発売したところ、一時、売り切れになるほどの反響を呼んだ。『男性不妊症』（石川2011）、『男を維持する「精子力」』（岡田2013）、『妊活カップルのためのオトコ学』（小堀2014）、『俺たち妊活部』（村橋2016）といった男性の不妊や生殖に焦点を当てる一般向けの書籍が刊行され、読者の好評を得ている。

社会は猛烈な勢いで、男性の不妊や生殖に関心を注ぎはじめている。そして、男性たちも一定の反応を見せている。「自身の不妊症の可能性や、生殖に向き合おうとしない」といわれてきた男性の姿は、一昔前のものになりつつある。

〔問いと手順〕 では、上記に示したような、男性の不妊と生殖をめぐる一連の現象は、男性の身体史からみて、どのような意味を持つのだろうか。この問いを、次の手順で明らかにする。①男性性器露出検査であるM検の1930年代の事例から、「検査される男性身体」がどのように扱われていたのか、その特徴を抽出する（澁谷2009、2013に依拠する）。②抽出された特徴と共通するも

のが、現代の男性の不妊と生殖をめぐる現象にも見いだせるのか、検討する。

③各現象を総括し、上記の問いに答えを出す。

[excuse] 男性不妊をめぐる言説については、登壇の依頼を受けたのち、限られた時間で縦覧したのにすぎない。資料は狭い範囲から採取してきていることをご理解いただきたい（3大紙のデータベースで「男性 不妊」で検索し、2014年以降の主要な記事を拾った。さらにいえば、今回の発表では、朝日新聞社系のメディアからの引用が多くなった。もちろん他意はない）。

2. 「検査される男性身体」の特徴とは——1930年代の学校と軍隊でのM検から

2-1 M検とは

男性器露出検査のこと。日本ではじめて行われたのは、1871年の大阪兵学校での日本初の徴兵検査であると推察される。徴兵検査で行われたほか、20世紀はじめには高等学校の入学試験にも導入された。東京帝国大学教授の井上哲次郎が1906年に次のような文章を発表している。

「〔第一高等学校志願者5,110人のなかに13人の花柳病=性病患者が見つかったことについて〕例へは熊本の高等学校杯に於ては、従来裸体にして体格検査を行って来たものであります、〔中略〕〔東京の〕第一高等学校に於ては、今年始めて裸体にして検査をしたのであります、それで意外に十三名も花柳病患者を発見した」（井上1906: 67）

井上の文章からも分かるとおおり、M検の目的は、受験生が性病に罹患していないかどうかを見ることである。が、同時に、性病に罹患するような行いをする「下賤な人物」でないかどうかも見ていた（当時、性病罹患の主な経路は登楼=買春と考えられていた）。

徴兵検査におけるM検は戦争とともに終了したが、大学の入学試験や、入社試験におけるM検は戦後しばらくまで行われた。東大では1957年まで、神戸大学教育学部では1960年代半ばまで、航空大学校や松山商科大学では1970年代前半まで、行われた。各大学が廃止の理由を明言した資料は確認されてい

ないが、おそらく「人権への配慮」だと考えられる（澁谷 2013: 4 章）。ある鉄道会社の入社試験で 1964 年に行われた M 検が、受験者によって人権擁護局に告発され、是正指導が行われている（澁谷 2009）。

2-2 M 検にみる「検査される男性身体」の特徴とは

では、「検査される男性身体」の特徴として、1930 年代の学校と軍隊の M 検の事例から、どのようなものが抽出できるだろうか。それは、すくなくとも 3 点にまとめられる。

特徴① 「生産性」と結びつけられる M 検が行われるのは、学校においては入学時、軍隊においては入隊時であった。入学かかった学生が将来なるであろう職業人も、兵士も、生産性の発揮を求められる「働く身体」である。「働く身体」として生産性を発揮しおおせる心身を持っているかどうか、M 検によって調べられた（澁谷 2013: 513-22）。以下の問答はそのことを示す好例である。

「(問) 海兵等の『局部検査』は、地方でも東京の様に大つびらですか？ (弱心臓) / (答) 大抵『大つびら』です。軍人にならうとするものが、処女のような『はにかみ』をもつてゐる様では、戦争は出来ませんからね」(『受験旬報』1938 年 6 月上旬号: 120)

男性身体の「再生産性」=生殖能力は、M 検ではほとんど考慮されなかった。たしかに、M 検は性病の有無を見る検査であり、当時の医学言説において、性病の害として「不妊」が挙げられることはあった。が、それは数ある害のうちの一つでしかない。そもそも、M 検では、小便を採取されることはあっても精液を採取されることはなかった。

特徴② 性的健康の自己管理を促される。じつは、学校の入学試験での M 検の実施率はさほど高くなかった。高等学校で 17%ほどと推定される。ただし、そのことは受験生たちが M 検を意識しなかったことを意味しない。じっさいの実施率に反し、受験雑誌上では、ほとんどの高等学校が M 検を実施することを表明していたため、受験生たちの関心を引いていた。健康相談欄には、

M 検とは何かを問う読者からの質問が定期的に掲載されている。

「(問) 局部検の場合、弱小は合否に関係いたしますか？ (三八生) / (答) 全然と云ついても良い程関係いたしません」(『受験旬報』1936年11月下旬号: 93)

「大きいとか小さいとか、よく心配されていゐる方が居られますが、大きからうが小さからうが、とに角、いまはしい病氣さへなければ、大小などは検査官は気にかけてゐない様な見方です」(Y・M生1937: 36)

「(問) 自洗経験者は、局部検査の場合見破られますか？ (悩生) / (答) 回数が少く健全な発達をしてゐるものなら殆ど判りませんが、その他のものなら、大抵結果が形の上に現はれてゐますから、一見して直ぐに判ります」(『受験旬報』1938年6月上旬号: 120)

性器のサイズは見ないが、病気の有無は見られて合否に響き、自慰癖も見破られる。そんな回答を前に、ほとんどの受験生が性的身体の自己管理に励んだだろう。そこでは、図1のような「自己管理」のループが形成されていたと考

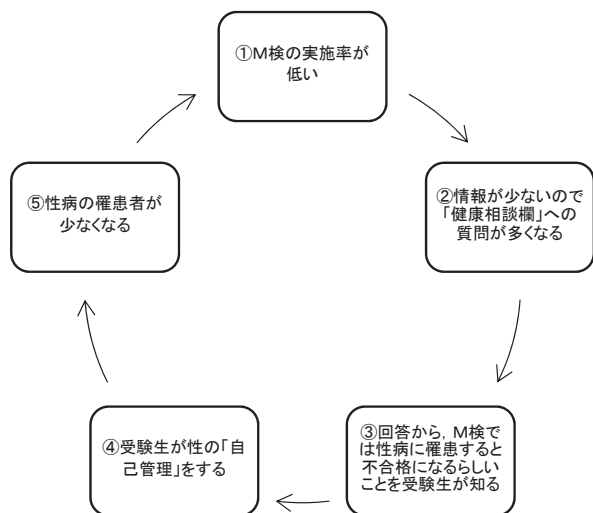


図1 M検実施率の低さが引き起こす「自己管理」のループ

えられる（澁谷 2013: 4 章）。

特徴③ 「モノ」扱いはされる 徴兵検査やそれに準ずる検査での M 検で、青年たちは手荒い扱いを受けた。ある医官は、局部に不具合を持つ受検者にたいして、わざと大声で「ホーケー」と叫んだ（内田 1957: 93）。また別の検査官は、「お前、包茎か」といって青年の股間をもてあそんだ（笹岡 1976: 86）。外村繁は、徴兵検査の予備検査を受けにいった町医者で、「ひどい包茎だね」と医師に指摘されたことを、恨みとともに書きとめている（外村 1960 → 1962: 266）。

手や検査票などで陰部を隠す、という人間らしい動作をうっかりしようものなら、M 検への抵抗ととらえられ、制裁を受けた。監督者にどやされたり（長野 1976: 78、水野 1982: 155）、別室に連れていかれて、上官にしたたかに殴られた（岡崎市郷土資料館 2003: 6）。

羞恥心という人間らしい感情が無視されることも少なくなかった。若者たちが M 検を受ける様子を、若い看護婦や国防婦人会の女性たちが見ていたのである。「今年ほうら若い看護婦さんが立つてゐます。小生もこれには少なからず度肝を抜かれました」（防長 1938: 84）と、山口高校の受験生が動揺を書きとめている。金沢医科大学附属医学専門学校の受験生は「看護婦が沢山ゐるから尚テレルよ」（『受験旬報』1941 年 2 月号: 159）と座談会で述べている。愛知県岡崎市で徴兵検査を受けた男性は、「検査場には国防婦人会の人はずら一と一列に並んで検査を見ていた。素っ裸にされて、前も尻の穴も全部調べられてさ、あの時は今度生まれるならば女に生まれたいと思った」と当時を回顧している（岡崎市郷土資料館 2003: 6。強調引用者）。「男」になるための儀式なのに、「今度生まれるならば女に」と受検者に思わせてしまう皮肉さが、M 検にはあった。

手荒い扱いや、人間らしい動作や感情が否定される経験をつうじて、受検者たちは自己の身体が「モノ」であることを思い知らされる。兵役経験者で、ゲイ・ボルノ小説家の笹岡治作は、全裸で身体検査の全行程を受けさせられ、さまざまな凌辱にあった入営初日の所感を次のように書きとめている。

「軍人の第一歩は、わかもの特有の羞恥心を追放し、物質としての自らの肉体に忠実になることである」（傍点引用者。笹岡 1976: 86）

3. 「検査される男性身体」の特徴は近年の男性の不妊と生殖をめぐる現象に見いだせるか

1930年代のM検にみる「検査される男性身体」の特徴は、近年の男性の不妊と生殖をめぐる現象にも見いだすことができるのだろうか。答えを先取りすると、特徴①については見いだせないが、②③に類似するものは見いだせるようだ。

現象① 男性身体が「生産性」ではなく「再生産性」と結びつけられる 当然のことながら、不妊と生殖をめぐる現象が注目しているのは男性の再生産性＝生殖能力である。その点において、M検とはまったく性格が異なる。

ただし、女性が再生産性と結びつけられているのと同じ形で、男性も再生産性と結びつけられているのかというと、そうではない。男性の再生産性には「男らしさ」と「力」の意味づけがなされる。男性不妊専門医の岡田弘は、自著『男を維持する「精子力」』の冒頭で、「本書のタイトルを、『男性不妊』ではなく『精子力』という言葉にさせていただいたのは、元気がなくなっている男性不妊患者さんとその大切な分身である精子を応援するためである」と説明している(岡田2013:はじめに)。

現象② 男性たちが性的健康の自己管理を促される 精子セルフチェックキットの人気は、生殖を意識しての性的健康の自己管理が男性たちの間で広がりつつあることを示している。メーカーは、「若いうちから」男性をして自己の精液に「興味」、「気づき」を持たせ、何かあれば病院に赴かせることを商品のねらいとしてはっきり打ち出している。

「マスターベーション補助具は30～40代が中心だが、メンズルーペの購入者は3分の1が20代。『若いうちから自分の精液がどうなのか興味を持つことは、不妊改善にもつながる』〔TENGA 佐藤雅信取締役〕(『週刊東洋経済』2016年7月9日:68)、「メンズルーペはあくまで雑貨品です。医学的判断はできませんが、不妊の原因が男性にもあるということを意識していない層に“気づき”を与えたいんです」(前出の佐藤取締役。秦2016:165)、「[リクルートライフスタイル販売のSeeMキットは]不妊に悩むカップルの『妊活』に、男性にもより積極的に取り組んでもらおうと開発した。〔中略〕医学的な診



図2 Tenga 発売のメンズルーペ

断に代わるものではなく、病院での検査へのハードルを下げてもらうのが目的という」（『朝日新聞』2016年11月22日:6）

さらに、性的健康の自己管理を男性に促すトレンドを、「男の精子も老化する」言説が後押ししている。

「『いくつになっても、男は射精できる限り、子どもがとれる』と思っていたら、それは大きな間違いだ。女性の卵子の老化のように、男性の精子の力も衰えていくのである。／その目安は35歳」（岡田2013:2章3節）、「男性も年をとるにつれ、精子ができる際の遺伝情報の複製ミスで、変異が起きやすくなることがわかってきた。〔中略〕『父親の年齢が子のゲノムに影響して病気のリスクを高める可能性はある』〔脳科学者・加藤忠史〕」（瀬川2016:30）

現象③ 男性身体が「モノ」扱いされる 不妊治療において、患者は人間らしい感情の一切を捨て、自らの身体をひたすら「モノ」としなければならぬ。その様子は、夫婦で不妊治療にはげんだ村橋ゴローの記述にくわしい。とくに採精室の殺伐とした様子は、男性身体や精子が病院によって「モノ」扱いされていることを示している。

「まず採精室のあるフロアに呼ばれると、専用受付の小窓から DVD のリモコンが入ったトレイを渡された。100 円ショップで売っている、リモコン入れのケースだ。そして看護婦さんが『どれでも好きなのを何枚か選んでお持ちください』と渡してきたのが、十数枚のエロ DVD。しかし TSUTAYA のアダルトコーナーで物色するのとは違って、ここで時間をかけてガチ選びするわけにもいかない。そそくさとタイトルも見ずに 3 枚ほど選び、採精室に逃げ込んだ。／小部屋に入るとそこは 4 畳ほどのスペースで、壁掛けにされたテレビモニター、その下のラックには DVD デッキ、ティッシュ、除菌スプレー、ラック下段には 10 冊ほどのエロ本があった。DVD を自分で選ぶシステム、小部屋のなかのアイテム群の配置。これ全部、DVD 鑑賞・個室ビデオ店まんまじゃねえかよ！ ソファがリクライニングチェアだったら、もう新橋の個室ビデオ店まんまじゃねえかよ！」(村橋 2016: 2 章 5 節)、「ここはまるで、人を産み出す工場だ。患者は、そのロボットだ。すべての感情を捨ててベルトコンベアに乗り、子どもができるのをひたすら待つ」(村橋 2016: 2 章 4 節)

同種の「殺伐とした感じ」は、精子セルフチェックの体験記にも見いだされる。

「畳まれたカップを広げ、おもむろにズボンを下げた。観察するための自慰。なかなかの空しさだ」(秦 2016: 165)

男性不妊専門医の岡田は、否定的なニュアンスながら、現在の不妊治療における男性を「精子だけを供給すればよい存在」とはっきりと述べている。

「〔生殖医療の発展にともない〕不妊治療はその原因が女性にあらうが男性にあらうが、大規模病院ではなく、産婦人科医が中心である ART クリニックに次第に移っていった。そして、男性は『精子だけを供給すればよい存在』に貶められたことになる」(岡田 2013: はじめに)

病院のやり方に従うまま、精子だけ提供していたのであれば、男性は本当に

「モノ」になってしまう。かろうじて男性を「人間」の領域にとどめさせる行為が、「妻へのサポート」である。最近の不妊治療をめぐる記事には、「妻へのサポート」を男性にすすめる言説が必ずといっていいほど挿入されている。

「男性不妊の場合も不妊治療の主体は女性。妻のつらい思いを夫が理解できないと、妻はいらだちを募らせてしまいます」、「夫は、妻のつらい思いを受け止めようと努めることが大切」(生殖心理カウンセラー平山史朗。『読売新聞』夕刊、2016年5月18日:8)

「不妊の原因が男性にあっても、治療を受ける主体になるのは女性なんだ。男性にできることなんてほんの少し。〔中略〕僕にできることは、普段通りの生活をして、彼女のサポートをするだけ。〔中略〕妻にできることはしてあげたい。洗濯などの家事だって、僕にできることはするんだ」(無精子症であることを公表しているタレントの小錦八十吉。『朝日新聞』2017年1月12日:22)

「妻へのサポート」の重要性は強調してもしすぎることはない。ただし、「妻へのサポート」は、不妊治療における男性の「モノ」としてのありようを、根本的に変更するものではない。むしろ、男性の「モノ」性を隠蔽し、現在の治療のありかたを維持することに加担している。

4. 結論——再生産領域で進む男性の「モノ」化

当初の問いに戻ろう。「男性の不妊と生殖をとりまく近年の諸現象は、男性の身体史からみて、どのような意味を持つのだろうか?」

現象①③は、男性の「モノ」化が生産領域のみならず再生産領域においても進みつつあることを示している。M 検は終わり、生産領域において、直截的な形で男性身体が「モノ」化されることはなくなった。しかし、男性であることを理由に過酷な労働を求められて過労死したり、自殺や病気においこまれたりすることは現代ではめずらしいことではない(男性のみならず、女性もそうした過酷さを経験しているわけだが)。生産領域における男性身体の「モノ」化は、終わったわけではない。

これに加えて、再生産領域でも男性身体の「モノ」化が行われようとしている。しかも、現象②にみるように、一部の男性たちは自らすすんで、「よき精子生産者」になろうとしている。自己の妊娠可能性に気をつかうことは、これまで女性がすることと思われてきた。が、医師が「男性不妊」を「精子力」と読み替えたように、自らの精子に気をつかい、定期的に精液を採取して自己チェックをおこなうことは、今後「男らしい」おこないになるかもしれない。

自らすすんで、男性たちが、再生産領域における男性の「モノ」化をおしすすめている——。男性の身体史から、男性の不妊と生殖をとりまく近年の現象の意味を引き出すとすれば、これが答えとなる。

この流れをそのまま放置しておいてよいのだろうか。「女性と同様、男性も不妊と生殖のプレッシャーに苦しんだらよい」のだろうか。男性と不妊／生殖をめぐる新しい局面を前に、今までにない問いが浮上している。

引用文献

石川智基 2011 『男性不妊症』 幻冬舎

井上哲次郎 1906 「学生の風紀問題に就て」 『太陽』 12 卷 13 号: 63-74

内田武男 1957 「体験談——水平生活と禪」 『奇譚クラブ』 1957 年 9 月号

岡崎市郷土資料館編 2003 『額田郡公会堂と物産陳列所——徴兵検査が公会堂でおこなわれた』

岡田弘 2013 『男を維持する「精子力」』 ブックマン社

小堀善友 2014 『妊活カップルのためのオトコ学』 中央公論新社

笹岡作治 1976 「わが戦争体験③——海軍内務班」 『薔薇族』 40 号: 84-90

澁谷知美 2009 「M 検の言説史・戦後篇——あるいは男性身体の〈侵襲的〉経験はどのようにして忘却されるか」 荻野美穂編著 『〈性〉の分割線——近・現代の日本のジェンダーと身体』 青弓社: 219-49

澁谷知美 2013 『立身出世と下半身——男子学生の性的身体の管理の歴史』 洛北出版

瀬川茂子 2016 「精子と加齢の関係 1 分で知る遺伝子 2」 『朝日新聞』 朝刊、2016 年 10 月 12 日: 30

外村繁 1960 → 1962 「濔標」 『昭和文学全集』 9 卷、角川書店

- 長野光 1976 「わが戦争体験——素裸の信号訓練」『薔薇族』1976年3月号
- 秦正理 2016 「精子セルフチェックの結果は… 本誌記者33歳、突撃ルポ」『週刊朝日』2016年6月10日: 165
- 防長健児 1938 「体検・口試記」『受験旬報』1938年11月下旬号: 84-6
- 村橋ゴロー 2016 『俺たち妊活部——「パパになりたい！」男たち101人の本音』主婦の友社
- 水野武男 1982 「後ろを向いて四つんばいになれ——戦時M検の思い出」『薔薇族』増刊号 1982 Summer: 154-8
- Y・M生 1937 「京都府立医大予科受験記」『受験旬報』4月上旬号: 35-8